

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	
		12/12-12/19	12/19-12/26
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.029
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.015
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.019
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.022
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.014
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.014
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.032
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.057

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	
		12/12-12/19	12/19-12/26
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.029
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.017

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第100回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(2018年12月12日～2018年12月26日)  
2014年11月に開始した大気浮遊じんの放射能測定は、今回で100回になりました。これまでの測定結果の推移を見ると大気浮遊じん放射能が着実に減少していることがわかると思います。そして、今回の観測値は、セシウム137は、平均0.02mBq/m<sup>3</sup>でセシウム134は、観測されませんでした。この測定を始めた当初は、時折、今回の平均値の50倍以上にもなる高い濃度が観測されたことがありましたが、仮にその濃度の放射能が存在していても、私達が毎日吸入しているラドンの屋内濃度の平均値(44mBq/m<sup>3</sup>)の1/2,000以下しかありません。このことが示すように、現在、南相馬市で観測される濃度の放射能による健康影響を心配する必要はありません。  
※現在 1回目から100回目までの測定数値を市ホームページで公開しております。ぜひご覧ください。